

2024 年度活動助成 活動実績報告書

団体名	結 creation
活動テーマ	地域の宝は地域で守る！地域資料レスキューからのコミュニティづくり



本事業は、水害等により水濡れなどの被害を受けた紙資料(手紙や書籍、アルバムなど)の応急処置法を学び、今後起こりうる自然災害や水損事故などに備え、個人の記憶や地域の共有財産である資料救出の初期活動を迅速に行うことができる人材育成を目指して実施した。講習会開催は、南海トラフ地震が発生した際に甚大な被害が想定される三重県志摩市と、阪神淡路大震災から 30 年を迎えた神戸市の 2 ヶ所を会場に選定し、発災初期対応時に必要な「基本」としての知識を学び、自ら経験する機会としての実習を交えて計画した。前半に実際に被災現場でレスキュー作業に関わった経験のある方を講師に招き、経験談をふまえた座学を実施。発災時にどのような動きをしていけばいいかなどをワークショップ形式でシミュレーションする時間も設けた。後半は、水損資料レスキューの初動作業で取り入れられることの多い「スクウェルチパッキング法」を中心に、資料の洗浄や乾燥方法のバリエーションなどを被災資料に見立てた古文書を用いての作業体験してもらった。

講習会実施を通して、水損資料レスキューについての知識と技術の両面から対処法を学ぶ機会を作ることには出来たと考えている。実際に作業も経験するため、そこから浮かんできた課題や疑問なども共有し議論することもできた。志摩市では、博物館学芸員と近隣図書館の司書の方が中心に、文化財担当の行政の方や地域でボランティア活動をされている方など 18 名が参加していただいた。神戸大学では、地域でボランティア活動をされている方や大学の教員、学生などが大半を占め、博物館学芸員や神戸大学の他の教員の方、県の災害対策を所管している部署の方など 10 名が参加していただいた。